

外国人住民との共生社会実現に向けたモノづくり・コトづくりプロジェクト

■背景

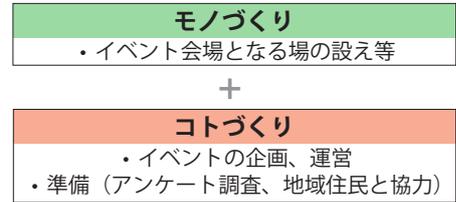
- ・2019年：特定技能制度 ⇒ 外国人住民の増加
[参考] 豊後大野市：400名程度（農業、介護等）
- ・各事業者が個別に雇用しており、居住実態は不明
- ・特定技能制度…これまでの技能実習とは異なり転職可能
- ・**持続的な共生社会**とは…??

- ・外国人住民が地域社会に対して愛着を持っている
- ・地域住民からの理解や配慮が自然と生まれている

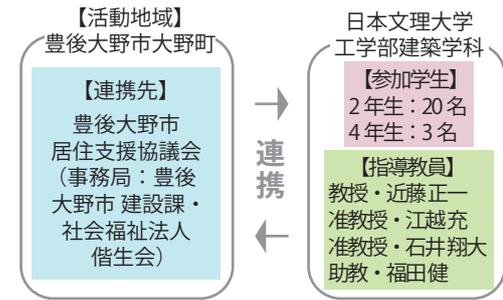


■目的

- ・外国人住民と地域住民の**交流を促進**するための**機会を創出**
- ・**交流の蓄積** ⇒ 外国人住民の**居住環境の改善**



■実施体制



■事業実施経過・実施内容

7月

R6.7.5 キックオフミーティング

【概要】

- ・豊後大野市居住支援協議会の取り組みおよび外国人実習生の実態についての説明を受けた
- ・**外国人実習生の住居および地域内の空き家を見学した**



外国人実習生宅での見学・インタビュー調査の様子

【結果】

- ・今後の活動に向けて、多くのヒントが見つかる、非常に有意義な現地体験となった
- ・見学時には学生が自発的にインタビューを行うなど、外国人住民の居住環境に対する関心の高さがうかがえた

R6.11.4 国際交流イベント②ボードゲーム & シェアハウス設計 中間発表

<国際交流イベントチーム（2年生8名）>

【概要】

- ・R6.10月から、新たな国際交流イベントの内容の検討を開始した
- ・シェアハウスでも行える**日常的なイベントを企画**することとし、**日本語の初学者も楽しめるボードゲームを2種類考えた**
- ・マス目に平仮名を入れ言葉をつくる「日本語パズル」と、豊後大野市の特産品等を描いた「神経衰弱〜豊後大野バージョン〜」を行うこととなった

【結果】

- ・外国人住民含め、高齢者や子供など様々な属性の方にボードゲームを楽しんでもらうことができた
- ・学生はイベントを企画し運営するやりがいや楽しさを感じるとともに、初めて接する方々へのルール説明の難しさなど、学びも得ることができていた

R6.8.23 国際交流イベント①生け花教室

【概要】

- ・外国人実習生の「お花が好きで部屋に飾っている」との発言から、生け花教室を開催することに
- ・生け花の指導者との連絡の他、道具の準備等は4年生を中心として**学生が主体的に行った**
- ・当日の外国人住民の参加者は**9名**であり、23名の日本人学生が交代で生け花教室のサポート（会場設営、通訳等）を行った。
- ・生け花教室の後には、外国人住民に対し、**日本での暮らしに関するアンケート調査**を行った



生け花教室の様子



アンケート調査の様子

【結果】

- ・生け花教室の運営に加えて、夏祭り全体の設営作業や屋台での接客にも携わり大いに活躍した
- ・**アンケート結果は、その後のイベント企画や交流空間の設計等に活用した**

- R6.7.12 プレ生け花教室
・生け花教室（R6.8.23）に向けた予行演習および打ち合わせ
[参加学生] 2年生2名、4年生3名
- R6.7.30 現地打ち合わせ
・豊後大野市まちづくり推進課、社会福祉協会の、生け花教室（R6.8.23）に向けた打ち合わせ
[参加学生] 4年生1名

9月

<シェアハウス設計チーム（2年生12名）>

【概要】

- ・事業計画（5月時点）では、イベントの会場となる空間の設計や家具・屋台の制作等を学生が行う予定であったが、場所の確保が困難となった。そのため、外国人向けのシェアハウスの設計提案を通して地域課題の<①居住環境の整備>に貢献することとした
- ・R6.10月から、実際の空き家を外国人のシェアハウスにリノベーションする提案の検討を開始した
- ・検討に際しては、それまでに行った交流やアンケート調査の結果を活かし、**居住者同士や周辺住民との交流を促進する仕組み**を考えた



シェアハウス設計提案を説明する様子



ボードゲーム実施の様子

【結果】

- ・模型やプレゼンテーションボードを展示し、外国人住民や地域の方々より、**提案改善のための様々な意見を得ることができた**

10月

R6.12.20 シェアハウス設計 最終発表

- ・これまでのイベント実施の経験や、**地域住民や外国人住民の声を踏まえて**、ハード面とソフト面の両面から提案を作り上げた
- ・偕生会、外国人住民の方々、大分県、豊後大野市役所、国際交流協会の皆様に参加いただき、**活発な意見交換を行う**ことができた

A案/2年生10名▶

【特徴】

- ・折り畳み戸により、6畳の個人スペース ⇒ 1つの大空間に
- ・複数のシャワー室、トイレ、収納



B案/2年生10名▶

【特徴】

- ・外国の文化を取り入れ、外でも食事が可能
- ・中庭や庭先の畑で自然を感じる



- R6.9.17 現地打ち合わせ
・生け花教室（R6.8.23）およびアンケート調査の報告共有・打ち合わせ
・10月以降に実施予定のイベント等についての協議
[参加学生] なし
- R6.10.3 現地打ち合わせ
・国際交流イベント（R6.11.4）等に向けた情報共有・打ち合わせ
・イベント周知の協力依頼
[参加学生] 4年生2名
- R6.10.4 現地打ち合わせ
・今後のスケジュール確認
・空き家の実測
[参加学生] 4年生2名
- R6.10.29 イベント周知
・外国人実習生を雇用する事業所2か所を訪ね、国際交流イベント（R6.11.4）の周知を行った
[参加学生] 4年生1名

12月

■学生による課題解決行動・地域への成果

学生による課題解決行動と地域への成果は以下の3点である

1. **外国人住民の居住実態の把握**：外国人実習生の住居の見学やインタビュー調査を通して、居住実態・課題を把握することができた。特に、大学生ならではの視点が入ることで、実習生の日常的な趣味など、課題だけではなく多様な情報を発見した。また、イベントの実施やシェアハウス模型の提示を通して、インタビュー調査だけでは分からない、住空間や過ごし方に関するより具体的な情報をフィードバックとして得ることができた
2. **交流イベントや居住地創出に向けたアイデアの提供**：外国人住民や地域住民と交流しながら、学生目線で新たなイベントの企画や、空き家活用方法の提案を行うことができた。いずれのアイデアも今後さらに継続・発展する可能性があり、地域にとって有用なアイデアを提供することができたと考えられる
3. **多様なステークホルダーとの関係性構築**：課題や提案を考える過程においては、外国人住民に加え、地域の国際交流団体や、外国人住民を雇用する企業など、様々なステークホルダーと連携することができた。特に、イベントの企画や、当日の準備・運営を通して、大学生が「外国人住民との共生」に向けて取り組んでいることを印象づけることができた。このような関係性の構築は、今後地域における共生社会実現に向けた動きの基礎を成すものであると考えられる